

『浪華悲歌』



開場9:00 上映9:30 終映10:42

原作:溝口健二 脚色:依田義賢

出演者:山田五十鈴、梅村蓉子、進藤英太郎、原健作、志村喬
(1936年/第一映画/白黒/72分)

大阪の製菓会社で電話交換手として働くモダンガールのアヤ子が、家族の経済的苦境を救うため、恋人がいるにもかかわらず、言い寄ってきた社長の困われものとなるが…。男たちの欲望と卑劣さと弱さの餌食になって転落していくアヤ子の姿を、徹底的に冷ややかな視線で捉えた戦前の代表作。キネマ旬報ベストテン第3位。

『西鶴一代女』



開場11:00 上映11:30 終映13:46

原作:井原西鶴「好色一代女」 脚本:依田義賢 美術:水谷浩

出演者:田中絹代、三船敏郎、宇野重吉、菅井一郎、進藤英太郎、加東大介、沢村貞子

(1952年/新東宝=児井プロ/白黒/136分)

夜鷹の女は、ふと入ったお寺の五百羅漢を見ているうちに、過去に出会った男達の顔を次々に思い浮かべ、そこで生まれた悲喜こもごもを静かに回想する。映画化にあたって主人公の自己主張や被害者意識を極力排し、男性本位の都合で一生をたどってしまう女を、客観的に凝視して描いている。キネマ旬報ベストテン第9位。ヴェネチア国際映画祭国際賞受賞。

『雨月物語』



開場14:00 上映14:30 終映16:07

脚色:川口松太郎、依田義賢 撮影:宮川一夫 照明:岡本健一

音楽:早坂文雄

出演者:京マチ子、水戸光子、田中絹代、森雅之、小沢栄太郎
(1953年/大映/白黒/97分)

戦乱の中、立身出世を夢見る男たち。藤兵衛は羽柴勢に紛れ込み、源十郎は若狭と名乗る妖艶な美女から惑わされる…。欲望と幸福、戦争と平和といった、いつの時代にも通じる普遍的な主題を、戦国時代の二組の夫婦を通じて対照的に描いた作品。艶のある画面を作り出した名カメラマン・宮川一夫の功績も大きい。ヴェネチア国際映画祭銀獅子賞、キネマ旬報ベストテン第3位。

『山椒大夫』



開場16:30 上映17:00 終映19:04

原作:森鷗外 脚色:八尋不二、依田義賢 撮影:宮川一夫

照明:岡本健一

音楽:早坂文雄

出演:田中絹代、花柳喜章、香川京子、進藤英太郎、浪花千栄子
(1954年/大映/白黒/124分)

平安末期、人買が旅人を言葉巧みに騙し、安寿と厨子王の子二人を山椒大夫に売ってしまう。原作では、子どものままだった姉安寿と弟厨子王を、映画は成人してからの二人に重点が置かれるとともに、安寿を妹、厨子王を兄と設定を変え、中世荘園の奴隷制度における悲劇をリアリスティックに描く。ヴェネチア国際映画祭で『雨月物語』に続いて二年連続で受賞。キネマ旬報ベストテン第9位。



溝口健二監督
プロフィール

1898年東京生まれ。ゴダール、トリュフォー、ベルトルッチ、スコセッシら国内外の映画人に影響を与え、世界では絶大な人気を誇る。1920年、監督助手として日活向島撮影所に入社。1923年監督デビュー。リアリズムに裏打ちされた傑作を次々と完成させる。長い低迷期の後、『西鶴一代女』で復活。続く名カメラマン宮川一夫とのコンビ作『雨月物語』、『山椒大夫』と、ヴェネチア国際映画祭で3度連続受賞。一躍国際的に認知された。その後も傑作を連発するも、1956年8月24日に急逝。享年58。